

## 2021 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	報告書作成/アンケート調査の実施/文献調査	[Redacted]	産前産後ケアはぐ 副代表
内部	インタビューの実施/報告書作成/アンケート調査の実施/文献調査		産前産後ケアはぐ 代表

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
産前産後に関する知識の向上 (トラブルや対処方法、相談先)	①産前産後のトラブルの予防方法や対処法、相談先を知っている「そう思う」 「ややそう思う」 6割 ②産前産後のトラブルの予防方法や対処法、相談先について知っていることが増えたと思う 6割	2023年2月	今年度は、NALU 助産院と連携する講座や産後ケアサービスを受ける対象者が非常に少ない状況で、アウトカムの前後評価のためのアンケートも取れていないため、変化や改善を感じるに至らず。これについての原因は、ターゲットである妊娠中の女性へリーチできていないことが考えられる。コロナ禍で対面の外出しにくい状況もあると思われ、2022 年度からはインスタグラムを使って、産前産後のままに寄り添う個別相談サービスを行う NALU 助産院と、事業と調査ともに連携を密にしていくことを確認した。

産前産後に関する相談機会の増加	当団体と接点がある人は、選択先の個数が2個以上になる。(当団体と接点がある人の定義：当団体のサービスを利用した事がある人)	2023年2月	アンケート評価はまだ実施していないが、オープンLINE チャット上で産前産後や育児の相談をされる件数や子育てにまつわる口コミ投稿数が増えてきており、相談機会の増加の一端を担えている。2021年6月～2022年4月の相談件数26件/口コミ投稿206件
(知識不足や受けられるサポートがわからないことによる)産前産後に関する不安の軽減	当団体につながることで、不安はあっても軽減したと答える人が増える	2023年2月	産後ケアを受けた人のアンケートで、不安の程度が産後ケアを受ける前から10段階評価で平均4.6ポイント減っている。
学びやセルフケアに関する主体性・積極性の向上(行動変容)	<p>①学び          学びに行ける場所の数が、当団体と接点がある人は、2箇所以上になる。</p> <p>②頻度→産前・産後1年未満に何回ずつ行きましたか？          産前平均が4回になる</p> <p>③セルフケア→自分の体のケア          ケアに行く場所の数 (1箇所以上が3割)          体のケアに行く頻度 (月1回以上が3割)</p>	2023年2月	今年度は、NALU 助産院と連携する講座や産後ケアサービスを受ける対象者が非常に少ない状況で、アウトカムの前後評価のためのアンケートも取れていないが、ママが講師となる仕組み作りや、ママのためのワークショップや講座の充実、ママサークル活動のサポートを行い、はぐのコミュニティに関わる人を増やすために活動した。はぐの開催するワークショップやイベントはリピーターが多く、はぐと接点を持ったことが、積極的に外に出るきっかけになっている。
産前産後の身体的なトラブルが減る	<p>①産前産後の身体的なトラブルを抱えていますか。Yesが70%          トラブルの個数15個</p> <p>②産前産後の身体的なトラブルが軽減したと思う          「そう思う」「ややそう思う」が50%</p>	2023年2月	2022年度に、アウトカム評価のためのデータ収集する予定

産前産後の精神的な負担が減る	①雲南省のデータより9点以上の人の割合が少なくなる	2023年2月	2022年度に、アウトカム評価のためのデータ収集する予定
産後の孤独感が軽減する	①よく感じる・時々感じるが74%より減る	2023年2月	2022年度に、アウトカム評価のためのデータ収集する予定
母親の育児負担が軽減する	①「そう思う」「ややそう思う」介入前の結果より増える	2023年2月	2022年度に、アウトカム評価のためのデータ収集する予定
自分のやりたいことが見付き、行動に移すことができるようになる	①具体的なエピソードが聞ける ②「そう思う」「ややそう思う（8割）」	2023年2月	今年度はアンケートは取れていないが、ママサークル事業や、はぐチャレンジ事業で関わったママたちが主体的に活動していく様子がうかがえた。
産前産後の女性に関する理解の向上	①「そう思う」「ややそう思う」が（4）割 ②「そう思う」「ややそう思う」が（4）割	2023年2月	2022年度に、アウトカム評価のためのデータ収集する予定
パートナー等による育児参加の増加	①パートナー等が子どもと過ごす時間、家事の時間が雲南省のデータより多い ②「そう思う」「ややそう思う」が（4）割	2023年2月	2022年度に、アウトカム評価のためのデータ収集する予定
当団体内のコミュニティの数と参加者が増える	①コミュニティの数 5	2023年2月	①2
	②参加者数 のべ150人	2023年2月	②のべ86人
地域自主組織などへの参加者が増える（地域につながる産前産後の女性が増える）	55人（2割増）	2023年2月	来年度に、アウトカム評価のためのデータ収集する予定



1 アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 (※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
短期アウトカムは中間地点でどの程度達成しているか	概ね達成の見込み	設定している 13 この短期アウトカムのうち、中間評価時で測定が可能だった 3 つの短期アウトカムの指標について、初期値からの進捗を確認した。 測定できたのは「産前産後に関する相談機会の増加」「産前産後に関する不安の軽減」「当団体内のコミュニティの数と参加者が増える」の 3 つで、いずれも進捗は順調である。 オープン LINE チャットはママ達が、オンライン上で緩やかにつながり、情報収集と相談の場として活用されている。また、産後ケアや、ママサークル活動、ワークショップ開催などリアルでつながる場作りも進んでいて、参加者も増えてきている。これらの変化や改善状況は、他の短期アウトカムの項目の達成のための足掛かりになると思われる。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価時で測定が可能だった短期アウトカムの指標について、13つの短期アウトカムのうち3つのアウトカムについて、判断基準に基づいて初期値からの進捗を確認できた。また、この進捗は他の短期アウトカムの進捗の足掛かりになるものと思われることから、短期アウトカムは概ね達成されつつあると評価する。</p> <p>短期アウトカムの「産前産後に関する知識の向上」「産前産後に関する不安の軽減」のために、2022年度からはInstagramを使って、産前産後のママに寄り添う個別相談サービスを行うNALU助産院と、事業と調査ともに連携を密にしていくことを確認した。これは、特に妊娠中の女性に向けて充実させていくことで状況の変化を期待する。</p> <p>残りの事業期間をとおして短期アウトカムの達成に近づけることは可能であり、そのための事業計画の改善も中間評価にて実施している。</p>



## B) 事業の改善状況の評価

### 1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	2022年1月に、まん延防止等重点処置が発令されて以降、はぐもぐ食堂の参加者の激減したことを受け活動内容を変更した結果、参加者が増加に転じた要因は何か	事前申し込みなしで当日参加、出入り自由としたことと、参加者を限定せず、誰でも参加できるように対象者を広げたことが好影響を与えたことと評価する。	<p>はぐもぐ食堂は、市内の親子を対象に「作る・食べる・遊ぶ」をコンセプトにした子ども食堂で、はぐではママサークル活動のひとつである。月1回の開催でリピート参加や口コミでのさん参加も多く、毎回満席となる事業であったが、まん防発令後は全く参加申し込みが無くなったため、サークルメンバーと共にその要因と対策についてディスカッションした。</p> <p><b>【参加申し込みがない要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染が増えたことでの外出控え</li> <li>・子ども達が調理する際や、集まって食事をする際に、感染リスクが高まることへの懸念があるのではないか</li> </ul> <p><b>【上記への対策として変更した点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子ども達の調理を中止して、スタッフが作った料理を販売する形にした</li> <li>②申し込み不要、時間内出入り自由として気軽に参加できるようにした</li> <li>③対象者を限定せず、誰でも参加できるよう間口を広げた</li> <li>④地域の方にも参加を呼びかけた</li> <li>⑤感染対策として飲食スペースを屋内だけでなく屋外にも設置した <b>【結果】</b></li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変更前よりも多くの参加があった</li> <li>・調理の作業がないので自由時間が多く、子ども達がのびのび遊んでいた</li> <li>・地域の方の参加があった</li> <li>・地域の方が参加され、実際の様子を見て、自分も子ども達にボランティアで紙芝居の読み聞かせをしたいと言われ、翌月を参加いただいた</li> </ul> <p><b>【考察】</b></p> <p>活動内容を変更したところ多くの参加があったことから、外出を控えているというよりは、より気軽にふらっと立ち寄れる場所が求められていることがわかった。</p>

			<p>コロナ禍で、いつ自分や家族が陽性者や濃厚接触者になるかもしれない状況では、予定が立てにくく申しにくかったかもしれない。</p> <p>コロナ禍でなくとも、子育て世代は急な体調不良などで予定が立て辛いので、ふらっと立ち寄れる場の提供がよりマッチしているのだと考える。</p> <p>また、対象者の間口を広げたことにより、地域の方にも気軽に参加いただける場となり、そこから支援の輪が広がっていくという好循環ができている。はぐもぐ 地域の人にチラシと伺っての声かけ。</p> <p>一方、子ども達と一緒に「作る」という活動も大切にしていきたいため、親子で簡単にできるおやつ作りをメニューに加えることにした。</p>
実施をとおした活動の改善、知見の共有	コロナ禍で外出を控えているママ・プレママに対し、どのようにサービスを届けるか	在宅にしながら、専門的な内容についての相談ができるインスタグラムを使った新サービスを、NALU 助産院と共に構築することが有効ではないかと考察する。	<p>短期アウトカム「産前産後に関する知識の向上」のためのアウトプット「妊娠中ママへの教育・啓蒙事業」の中の NALU 助産院と連携する講座への参加者が少ない要因について、スタッフ間でディスカッションして対策を考えた。</p> <p><b>【講座の参加者が少ない要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産前産後について、知識を持っていた方がいいという必要性は感じ ても、講座に参加してまで学ぶという行動に出る人が少ない。</li> <li>・講座の良さが伝わっていない</li> <li>・コロナ禍で外出を控えているママ・プレママが多い</li> </ul> <p><b>【考察】</b></p> <p>講座の内容については、確実に産前産後の女性（特に妊娠中の女性）に有効であり知って欲しいという思いで PR しているが、結果に結びついていない。対面の講座なので、コロナ禍の外出控えが影響していることも考えられるが、同じくコロナ禍で、病院の母親学級や乳幼児検診が縮小されたりしており、知識を得る機会も減ってきていると考える。</p>

			<p>そこで、家にいながら、より気軽に専門的な内容について知ることができたり、個別に寄り添うサービスがあるといいのではないかと考えた。</p> <p>そのために、ママ・プレママが馴染みやすいツールである、インスタグラムを使って個別相談や、より専門的なコンテンツの提供出来るサービスの構築を、NALU 助産院と連携して行うことにした。</p>
組織基盤強化・環境整備	助成終了後も対象グループへの支援を継続するために、資金調達以外の事業で取り組むべき活動は行われているか	<p>考察で述べた3つの事業で、助成終了後も対象グループへの支援を継続するための活動は計画に組み込まれ、活動の結果も出ている。</p> <p>よって、助成終了後も対象グループへの支援を継続するために、資金調達以外の事業で取り組むべき活動は行われていると評価する。</p>	<p><b>【LINE オープンチャット】</b>  入会キャンペーンや既存の会員に対してのプレゼント企画への賞品提供や、チラシの設置で、地元の企業や店舗に理解と協力をいただいている。「子育て世代を応援したい・繋がりたい」という地域の思いとママ達を LINE チャットを活用して繋げていく活動を続けることができおり、これは助成終了後も持続して継続可能と考える。</p> <p><b>【ママサークル活動】</b>  双子ママサークルについては、はぐがアドバイザーとして活動に関わっているが、代表・副代表のママ達が積極的に活動を計画し実行されている。加茂子育て支援センターや、市の保健師と繋がりを持つ活動も行われている。チラシ配布でサークルメンバーを募集してり、口コミや紹介でメンバーは 12 人となった。LINE オープンチャットを使ったメンバー同士の交流や、インスタグラムを使った発信も積極的に取り組んでいる。また、フリーマーケットや、イベント出店など収益活動も計画されているため、助成終了後も自走して運営できると考える。</p> <p>はぐもぐ食堂については、前項の考察にあるように、地域の方にも開けた場となるようやり方を変えたことで、ボランティアやサークルメンバーなど関係人口が増えてきている。資金面でも、休眠預金助成終了後も社協からの食材提供や、他の助成金申請で運営することは可能と思われる。</p>



			<p><b>【はぐチャレンジ事業】</b> この事業でサポートを受けたママ達が、はぐのフィールドでワークショップや講座を開催することで、今まではぐを知らなかったママとも繋がるができている。助成終了後も、ママ講師がそれぞれの場で独立して活動することで、より多くのママ同士のつながりが生まれることが期待できる。</p>
--	--	--	---

## 2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

はぐでは、子育て中のママにはぐと関わり、活躍してもらいたいという思いから、雲南市でデザインを学ぶ T さんに季刊誌やチラシのデザインを委託した。T さんはそれまで、はぐの活動については全く知られなかったが、デザイン制作のミーティングを通して、はぐの活動や想いに共感いただいた。その後は、はぐもぐ食堂やオープン LINE チャットも積極的に参加され、他のママにも声をかけ一緒に参加されるほどのコアなファンとなっている。現在、双子妊娠中であるが、双子サークルぱぴこや、はぐのサービスを利用して乗り切りたいと話されていたのを聞いて、妊娠中からはぐと繋がっている T さんが、安心して産前産後を過ごせるように利用して欲しいと思った。

## 3 事前評価時には想定していなかった成果

2021年7月に雲南市で起こった大雨による水害時、LINE オープンチャットでタイムリーな被害状況や、交通情報のやりとりが行われた。夕方の迎え時間だったため、市内の道路の冠水状況の写真が送られたり、立ち往生して困っているママに対して、園までの迂回路を伝えたり、多くの情報が寄せられた。こういった災害時の活用は想定していなかったが、自治体からの有線放送や防災無線での情報が届かない子育て家庭にとっては、LINE チャットのやりとりで状況がわかることが安心につながったのではないかと思う。

#### 4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



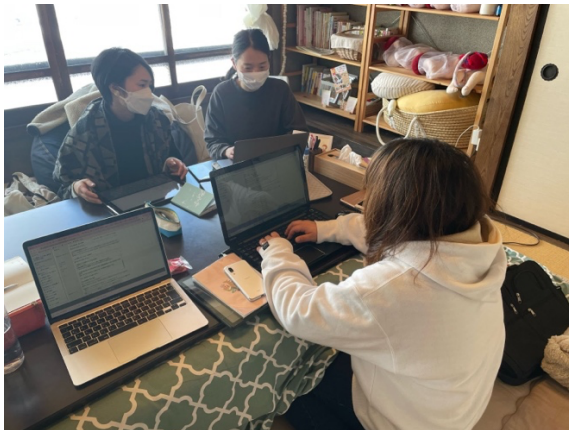
事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</li> </ul>	<p>中間評価を実施したことにより、主なアウトカムにつながるアウトプットの阻害要因及び貢献要因を検証することができた。それにより新たなニーズや不足していた取組みが明らかになった。これら調査結果をふまえ、スタッフ間で協議をしながら、来年度の活動に取り組んでいきたい。</p>

## 添付資料

- 1.中間評価実施前の事業計画（必須）
- 2.中間評価実施後の事業計画
- 3.活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



↑はぐもぐ食堂の様子（子ども食堂事業）



↑教室・ワークショップ開催のためのツール講習会の様子（ママチャレンジ応援事業）



↑HAPPY プレママ プレゼント BOX